

平成27年度授業改善推進プラン評価表（成果と課題）

文京区立昭和小学校

		成 果 と 課 題					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
国 語		<p>声のものさしや、話型、発声、口形に気を付けさせることにより、相手を意識して話したり伝えたりする力を伸ばしてきた。</p> <p>身の回りの出来事や経験したことをカードやメモを使って順序に気を付けて書く指導を行った結果、書く力が身に付き、楽しんで書く児童が増えてきた。</p> <p>文を正しく読み取って理解することに課題がある児童が少しいる。</p>	<p>生活科やほかの教科と関連を図ることができた。また、自己評価、相互評価を取り入れ、互いのよさに気付く場を設けられた。</p> <p>スピーチをする際、「声のものさし」や「聞き方名人」などの掲示物を使うことで、話し方、聞き方についての意識が高まった。</p> <p>自分の意見や考えを発表することに対して自信をもてない児童がまだ少しいる。</p>	<p>書く活動では、初め・中・終わりを意識させる構成メモをつくらせることで、文章の組み立て方に慣れてきた児童が増えた。</p> <p>正確に聞き取ったり、相手に分かりやすく伝えたりすることは課題が残る。</p> <p>ワークシートを活用したり、友達同士で意見を共有する機会を増やしたりしたことで、登場人物の気持ちに寄り添って、場面の様子を考えたり、心情を読み取ったりする力がついた。</p>	<p>場面ごとに工夫したワークシートを使用して、登場人物の心情の変化に沿った読み取りをすることができた。</p> <p>朝のスピーチを継続的に行った。構成表やカードなどをもとにして文をまとめることで、長文を書く力がついてきたが、個人差が大きいが課題である。</p> <p>漢字辞典や国語辞典を使い分け、使う習慣がついてきた児童が多い。文章の中での活用については個人差がある。</p>	<p>いろいろな文章に触れさせ、文章全体を通して読み解く力を身につけさせたり、関連させて自分の考えをもたせる指導をしたことにより、児童は叙述に即して、登場人物の心情の変化や要旨を読みとることができるようになった。</p> <p>教材を吟味し、気持ちを表す語彙を増やせるよう日常的に指導したことにより、語感、言葉の使い方に対する感覚や、話し合いや作文などにおいて語彙力や表現方法が豊かになったが、まだ十分でない児童がいる。</p>	<p>漢字の意味や使い方を調べる活動を通して、言葉に興味をもつ児童が増えた。</p> <p>読解の学習において、要旨を書きまとめたり、調べたことについて発表したりと様々な形態の活動を取り入れたことで、書く能力を高めることができた。一方で書くことに苦手意識をもっている児童は、関心が低く個人差があることが課題である。</p>
	社 会			<p>国語や総合的な学習の調べ学習と連動させ、自ら課題を設定し、自らの力で課題を解決していく力を伸ばすことができた。</p> <p>児童の興味関心を高めるような資料を多く提示し、資料から考える習慣をつけさせることで、資料活用・表現の力を高めることが必要である。</p>	<p>具体的な資料から、一人ひとりが自分自身の課題を持ち、主体的に調べる力を伸ばすことができた。また、グラフや表、文献、写真など各資料の特徴を生かして、調べたことをまとめる表現力もついてきた。引き続き、様々な資料を効果的に活用する力を高めていく必要がある。</p>	<p>問題解決に必要な資料の活用方法を指導してから調べ学習を行ったことにより、資料の読み取りが深まった。</p> <p>資料の選択の視点や方法、ノートへのまとめ方を指導したことにより、自分の考えを分かりやすく表現することができた。</p>	<p>歴史上の人物や出来事に焦点をあてて、興味関心を高めて授業を展開したことで調べ学習への意欲が高まり、新聞や模造紙にまとめたことで、表現する力が育った。</p> <p>資料から読み取る力を育てるために、資料の精選を行う工夫が必要である。</p>
	算 数	<p>基礎学習の時間や繰り返しドリル学習を行うことで、加法や減法の計算を定着することができた。</p> <p>式の表す意味を理解させるために、言葉や図、式を関連させて指導することは効果的だった。</p> <p>算数的語彙の未習得のため、表現力は、まだ豊かではない。</p>	<p>少人数指導で習熟度に応じた学習指導を展開することで基礎基本の学力が定着した。</p> <p>自己の考え、友達の考えを分けてノートに書くことで、自分の考えをもち主体的に学習に取り組むとともに、友達の考えにも触れ、学習を深めることができた。</p>	<p>習熟度に応じた指導をすることで、児童のニーズに応じた学習を展開することができた。発展コースの児童は、既習事項を基に根拠を明確にして説明することに慣れてきた。基礎コースでは、苦手な部分を繰り返し学習することで、意欲をたかめることができた。</p> <p>個人差の解消のために、さらに指導を工夫する必要がある。</p>	<p>個々の習熟度に応じた授業を行うことで、児童が自ら学ぼうとする意欲を高めることができた。</p> <p>四則計算の基礎基本では、個人差が大きいため、定着のための補充が必要である。</p> <p>自力解決の時間を十分にとり、説明し合う活動を通して、自分の考えを説明する力を育むことができた。</p>	<p>自分の習熟度に応じて適切にコースを選択する力が身に付いた。</p> <p>基礎学習の時間の活用により、四則計算などの基礎的な計算力が身に付いた。</p> <p>身近な事象や興味のある数量を効果的に用いて意欲を高めるとともに、自力解決でノート活用を図ることにより、算数的表現力が高まった。</p>	<p>習熟度に応じた授業を行うことで、計算の基礎基本の定着を図ることができた。どのコースでも自ら考え表現する力を育てることができた。</p> <p>習熟度コースを選択する力が身に付いておらず、低学年から段階的に自分の力を考えた選択方法を養う必要がある。</p>
理 科			<p>予想を立ててから実験を行ったことで、思考しながら実験に取り組むことができた。</p> <p>また、予想→実験→結論の活動が定着した。</p> <p>学校園や地域探検などを活用した自然観察は十分できなかった。</p>	<p>目的意識を明確にもたせて実験を行うことで、仮説と結果を比較検討したり、結果からどのようなことが言えるか考察したりすることができた。</p> <p>友達どうしてで討論できる場面をもう少し設定したかった。</p>	<p>予想・実験・観察の手順や様子・結果・理由や原因を明記した記録の仕方を指導し、目的を意識させて取り組ませたことにより、実験・観察の結果と結論とを区別して考えることができるようになってきた。</p> <p>日常的な生活場面で応用する力を高めるためにさらに科学的思考力を高める指導が必要である。</p>	<p>既習の基本技能を生かして問題解決型に沿った学習に進んで取り組む姿が見られた。経験したことをもとに推論し、実験を行うことで実験への意欲を高めることができた。</p> <p>知識から課題を考える傾向が強いためか、実験や経験から推論する力が弱いことが課題である。</p>	

生活	<p>自分なりの思いや願いをもたせて自然や人・物に関わらせることで、遊びや生活を工夫しようとする児童が増えてきた。</p> <p>季節ごとに校外に出て自然観察をするのは十分できなかった。</p> <p>保護者の方の協力により、昔遊びに取り組むよききっかけをもつことができた。</p>	<p>商店街や高齢者施設などで様々な人とかかわることで、自分の周りの人の工夫やに気づくことができた。</p> <p>自然とのかかわりについては多くの児童に興味をもたせるために、身近な変化で気づいたことを伝える場を設けるなどの工夫が必要である。</p>				
音楽	<p>毎月の歌や音楽学習の歌を明るく歌い、楽器の演奏にも意欲的に取り組んだ。</p> <p>リズム表現活動を行った結果、いろいろな打楽器でリズムを打ったり、追いかけてっこをしたり相手のリズムを聴き取ったりすることが上手になってきた。</p>	<p>鍵盤ハーモニカの演奏を楽しいと感じられるような演奏技術の指導を心掛けることができた。音楽に対して親しみをもち、楽しんで表現できるようになってきた。</p> <p>いろいろな楽器に触れる機会を取ることがあまりできなかったので、機会を増やしていきたい。</p> <p>手拍子によるリズム打ちを行い、リズムに慣れさせることができた。</p>	<p>題材を工夫し、基礎基本を繰り返して指導すると共に個人指導に重点を置いたことにより、歌・リコーダー・楽器など表現の技能の定着を図ることができた。</p> <p>支援を要する児童の指導と、音楽づくりの取組にも力を入れていきたい。</p>	<p>学習のめあてを明確にし、学習カードを使用したことにより、個々の児童だけでなく学年全体の表現の技能が伸びてきた。鼓笛・学習発表会にも意欲的に取り組んだ。</p> <p>支援を要する児童の指導と、音楽づくりの取組にも力を入れていきたい。</p>	<p>選曲を工夫し、課題の達成度を児童が把握できるような学習カードを活用したことにより、それぞれの学習内容の定着を図ることができた。鼓笛・学習発表会にも意欲的に取り組み、鑑賞の能力が伸びた。</p> <p>音楽づくりの取組にも力を入れていきたい。</p>	<p>選曲を工夫し、活動に対して的確な指示を心掛けることにより、それぞれの指導内容の能力を高めることができた。鼓笛・学習発表会にも意欲的に取組、鑑賞の能力が伸びた。</p> <p>音楽づくりの取組の時間をあまりとることができなかった。</p>
図画工作	<p>個々の児童の特性を生かせるような教材を選んで取り組んだことで学習活動や表現方法などに幅をもたせることができた。</p> <p>作業面での個人差はに対し、助言の仕方を工夫していく必要がある。</p>	<p>様々な具体作を見せたりイメージスケッチを取り入れたりすることで、豊かにイメージを膨らませることができるようになった。</p> <p>材料に十分に親しませる時間をとることで、材料の特性を生かした作品を作る児童が増えた。</p> <p>鑑賞の時間を定期的を設定することは、工夫や思いを伝える力を伸ばすのに効果的だった。</p>	<p>題材の工夫、児童一人ひとりへの声かけなどにより、多くの児童が関心をもって意欲的に創作に取り組んだ。</p> <p>創作を進めるための基本的な技能に、やや個人差があることが今後の課題である。</p>	<p>題材を工夫することにより、多くの児童が意欲的に創作に取り組み、その中で基本的な技能も身につけた。支援を要する児童に対する指導・助言の仕方を工夫していく必要がある。</p>	<p>題材、テーマの工夫や適切な助言で、多くの児童が意欲的に創作活動に取り組み、個々の造形的表現力も高まった。今後も適切な指導・助言を行い、個々の個性や創造力をいかして意欲的に創作に取り組みさせていきたい。</p>	<p>題材、テーマの工夫などにより、多くの児童が意欲的に創作活動に取り組み、個々の児童の造形的表現力が高まった。今後も、個々の個性や創造力をいかし、意欲的に創作に取り組みさせていきたい。</p>
家庭					<p>学習内容や指示を明確に示すことにより、全児童が課題を解決することができた。</p> <p>相互評価の場を設定したことにより、お互いの良さを認め合えるようになった。</p>	<p>身近な材料を用いた体験的な活動を行った結果、日常生活に生かそうとする意欲が高まった。実習では個人差が見られるので、巧緻性を高める手立てを考えていきたい。</p>
体育	<p>ワークシートや資料を工夫したことで、一人ひとりの児童が、めあてをもって取り組めるようになった。</p> <p>安全に気を付けて、ルールを守れる児童が多くなった。</p> <p>鉄棒やマット運動など器械運動は技能面で個人差がある。</p>	<p>様々な場や用具を用いて、中学年以降につながる動きを遊びの中で経験させることができた。</p> <p>よい動きを見つけさせたり、それらを広めたりしたことで思考判断力の高まりが見られた。柔軟性、投力に関して向上させるための手立てがさらに必要である。</p>	<p>単元計画や場の工夫を行い、スモールステップで学習に取り組ませることにより、技能面の向上が見られた。</p> <p>学習カードを使ってめあてを書かせたが、一人一人のめあての内容を高めていくことが難しかった。</p>	<p>めあてをスモールステップで提示し、すべての児童が意欲的に取り組むことができた。</p> <p>技能習得のポイントが理解しやすいように、学習カードの工夫はできたが、カメラやビデオなどの視聴覚教材を活用する手立てはあまり打てなかった。</p>	<p>めあてをスモールステップで提示し、様々な段階の児童が意欲をもって運動に取り組めるよう指導をしたことにより、児童は、課題を意識して、進んで学習に取り組むようになってきた。</p> <p>技能習得のポイントの資料はさらに開発が必要である。</p>	<p>運動の特性に合った場やルール、チーム編成などを工夫したことで、運動が苦手な児童も意欲的に取り組む姿が見られた。</p> <p>器械運動や表現活動において、視聴覚機器を取り入れたことで、自分の動きを客観的に捉えることができた。</p> <p>今後、学習資料を活用し、自ら良い動きを追及できるようにしたい。</p>

平成26年度授業改善推進プラン評価表（成果と課題）

文京区立昭和小学校

		成 果 と 課 題					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
国	語	<p>平仮名や片仮名・漢字の学習には意欲的に取り組めたが、語彙力が十分の育ってきたとは言えないので今後も語彙力を付けていくための工夫が必要。身の回りの出来事や経験したこと、物語の続き話を書くことで書く楽しさを味わうことはできたが、言葉の使い方などに課題が残る。</p>	<p>生活科やその他の教科などとの関連を図り、児童の生活体験などと結びつけた題材を選んだことにより、意欲的に文章を書くことができた。説明文の学習では、接続詞などを意識して、物のつくりを分かりやすく説明することができた。「お話を聞いて」のカードを活用することで、聞く力が高まり、話し手の良さに気付けるようになってきた。</p>	<p>作文を書く際に、初め・中・終わりの組み立てメモを活用し、更に接続詞を意識させることで、段落相互の関係に注意しながら文章を書くことができた。また、社会の学習と関連付け、社会科見学で学習した内容を発表させることで、児童が能動的に資料を集め、発表することができた。</p>	<p>場面ごとにワークシートを使用して登場人物の心情の変化に沿った読み取りをすることができた。熟語調べなどで辞書に親しませることもできた。話の内容を正確に聞き取ること、相手や伝えたいことを明確にして話すこと、構成を考えて作文を書くことについては、今後の課題である。</p>	<p>新出漢字のテストを繰り返してし行い定着させることができた。説明文の学習では、全体を通して読む力をつけることができた。作文やノート指導を通して書く力を育成してきたが、個人差が大きい。個々に応じた指導を充実させる必要がある。</p>	<p>漢字や熟語調べを通して、言葉に興味をもつ児童が増えた。スピーチ活動を継続的にを行い、自分の考えを順序立てて伝える力が高まった。様々な形態の文章を書く活動を通して、表現力の育成を目指したが、書くことに苦手意識をもつ児童も多く、個人差があることが課題である。</p>
社	会			<p>総合的な学習の時間と連動させ、自ら課題を設定し、自らの力で課題を解決していく力を伸ばすことができた。児童の興味関心を引き付けるような資料を多く提示し、資料から考える習慣化させることで、資料活用力を高める活動が必要。</p>	<p>体験や具体的な資料から課題を設定し、主体的に調べる力を伸ばすことができた。また、調べたことを工夫してまとめる表現力もついた。資料を集める際に、どのような資料が課題解決に適しているか考えさせることが必要である。</p>	<p>単元の導入を工夫することにより、意欲的に調べ学習を行い、普段のニュースにも目を向けるようになった。資料を根拠に、自分の考えをまとめられるようにしていきたい。</p>	<p>調べたことを、自分の言葉でノートや新聞、人物相関図などにまとめたことで、表現する力が育った。友達と考えを交流することで考えを深められた。資料から読み取る力を育むため、提示する資料を精選することが必要。</p>

算 数	<p>具体物を取り入れた活動を多く取り入れたことで楽しく学び、加法や減法の表現・処理能力を高めていくことができた。しかし、まだ十分でない児童もいるので反復練習を継続していくことも大切である。少人数での授業により、個別での支援が必要な児童に関わる時間を確保することができるようになってきた。</p>	<p>具体物や半具体物を多く取り入れ、楽しく活動する中で、基礎基本を定着させることができた。少人数の授業により、個々の理解度に応じた授業展開ができ、支援を要する児童への適切な支援が行えた。ドリルやプリントなどを基礎学習や家庭学習などで活用し、2位数までの加法と減法、かけ算の習熟を図ることができた。</p>	<p>習熟度別のクラス編成で授業を行い、学力の向上を図ることができた。自力解決の場面で文や図、式を用いて自分の考えをわかりやすく説明するちからが少しずつついてきた。</p>	<p>個々の習熟度に応じた授業を行うことで、児童が自ら学ぼうとする意欲を高めることができた。四則計算では、処理に個人差が見られるため、習熟する時間が必要である。また、自分の考えを説明する力をより一層育むことができるよう、説明の機会を今後も重点的に取り入れていく。</p>	<p>少人数指導により、個々の習熟度にあった授業を行うことができた。四則計算の基礎基本は、個人差が大きいいため、既習事項の補充が必要である。更に、技能だけでなく、思考力をつけさせたい。</p>	<p>少人数指導により、各コースに合った授業を展開することで習熟が高まった。単位の単元では、量感を得られるよう算数的活動を増やすなど教材の工夫が必要である。また、習熟に個人差が見られることも課題である。</p>
理 科			<p>学校園を整備し、モンシロチョウの観察を行うことができた。実験の際、予想と結果をもとに自分なりの考察をさせたことで、思考力・分析力が向上した。遠足や地域探検などを活用した自然観察は十分実施できなかった。</p>	<p>動植物の観察をする際、前回との違いや変化に気づき、季節や気温と関係づけて考えることができた。また、実験の場面では、目的意識を明確にもたせて取り組ませることができた。年間を通じて動植物の観察をするのに、適した教材や場所を検討する必要がある。</p>	<p>実験や観察などの体験的な活動を行うことにより、意欲的に学習することができた。日常生活と関連付けて考えられるように指導していくことで、考察する力をつけさせたい。また、児童が安全に器具を使えるように、使い方を徹底させる必要がある。</p>	<p>既習の基本技能を生かし、問題解決の流れに沿った学習に進んで取り組む姿が見られた。経験したことから推論してから字実験を行った。実験や観察の経過や結果から自分の考えをまとめて書くことで表現する力が伸びた。知識ではなく、経験や実験結果から考えることを繰り返す必要がある。</p>
生 活	<p>自分なりの思いや願いをもって進んで自然や人・物に関わることで遊びや生活を服うことができる児童が増えてきた。公園探検を通し、自然との関わりの時間をもつことができた。昔遊びでは保護者の方の協力により、遊びに取り組むよいきっかけをもつことができた。</p>	<p>家族や地域の人々と触れ合えるような活動を多く取り入れ、自分のよいところやまわりとのつながりに気付くと共に、地域との関わりを理解するきっかけをもつことができた。小動物との触れ合いがあまりできなかったが、身近に触れ合える環境を活用し、経験を増やしていく。</p>				
音 楽	<p>身近な楽器に親しみ、いろいろな曲を楽しく演奏することができた。伴奏に合わせて身体表現をしたり、手拍子や打楽器でリズム表現したりする活動を多く取り入れたことで音楽の楽しさを味わうことができた。</p>	<p>いろいろな楽器に触れ、全体やグループ、ペアで演奏することを通して音楽の楽しさを味わうと共に、音の重なりを意識して、演奏することができた。リズム譜の活用により、自分の思いでリズムをつなげたり、つくったりして、無理なく楽しくリズム打ちすることができた。</p>	<p>歌や器楽の基礎基本について、学習カードを効果的に使用して繰り返し指導することができた。演奏の技能を伸ばすことができた。楽曲を聴いて、曲の仕組みを感じ取ったり、気づいたことをうまく言葉にしたりする能力に、やや個人差があることが今後の課題である。</p>	<p>鼓笛に前向きに取り組んだ。さまざまな楽器を授業で取り上げ学習カードを効果的に使用しながら演奏することにより、楽器の奏法と知り、演奏の技術が高まった。楽曲を聴いて、気が付いたことや感じたことをまとめる能力についても、ポイントを整理して聴くことにより、伸びた児童が多い。</p>	<p>鼓笛に前向きに取り組んだ。学習カードを使いながら、めあてを具体的に伝え指導することにより、表現の能力が高まると共に、友達と合わせる喜びを味わうことができた。特にリコーダーの学習は、課題を明確にすることにより個々の児童の演奏技術が上達した。</p>	<p>鼓笛に前向きに取り組んだ。音楽用語について理解したことや学習カードを使用し課題を明確にしたことにより、一人一人の演奏技術が向上した。また、互いの演奏や鑑賞の感想のよさを認め合い、高め合うことができた。</p>
図画工作	<p>個々の児童の特性を生かせるような教材を選んで取り組んだことで学習活動や表現方法などに幅をもたせることができた。課題に取り組む姿勢に個人差があるので、助言に仕方を工夫していく必要がある。</p>	<p>具体的な例を提示して、イメージを豊かにふくらませたことによって、児童が教材の特性を生かして表現することができた。制作過程での鑑賞を行うことで、作品作りの思いを友達作品のよさに気付くことができた。</p>	<p>題材の工夫、児童一人一人への声かけなどにより、多くの児童が関心をもって意欲的に創作に取り組んだ。創作を進めるための基本的な技能に、やや個人差があることが今後の課題である。</p>	<p>題材を工夫することにより、多くの児童が意欲的に創作に取組、その中で基本的な技能も身につけた。支援を要する児童に対する指導・助言の仕方を工夫していく必要がある。</p>	<p>題材やテーマの工夫などにより多くの児童が意欲的に創作活動に取組、造形的表現力も高まった。今後も適切な指導・助言を行い、自信を持たせ創作に取り組ませていきたい。</p>	<p>題材、テーマの工夫や適切な助言を行うことで、多くの児童が意欲的に創作活動に取組、個々の児童の造形的表現力が高まった。今後も、個々の個性や創造力をいかし、意欲的に創作に取り組ませていきたい。</p>

<p>家 庭</p>					<p>作業の進み具合を個別に把握し支援することで、学習の意欲を高めることができた。安全に留意して活動できるよう、指示をしっかりと聞くことを徹底していきたい。</p>	<p>身近な材料を用いた体験的な活動を行った結果、日常生活に生かそうとする意欲が見られた。実習については、個人差が見られるので、巧緻性を高める手立てを考えていきたい。</p>
<p>体 育</p>	<p>教具の工夫、声かけ・励ましなどの支援を継続して行ったことで、ねらいに沿った運動をできる児童が増えてきた。体づくり運動で例示されている多様な動きを取り入れたことで、体を動かす楽しさを味わうことができる児童が増えてきた。</p>	<p>体づくり運動で例示されている多様な動きを取り入れ、楽しく活動することができた。学習カードの活用により、児童が意欲的に目標をもって取り組むことができた。単元や場の設定の工夫、声かけや励まし、相互評価を取り入れ、支援することができた。</p>	<p>単元計画や場の工夫を行い、スモールステップで学習に取り組ませることにより、技能面の向上が見られた。学習カードを使ってめあてを書かせたが、一人一人のめあての内容を高めていくことが、難しかった。</p>	<p>めあてをスモールステップで提示し、すべての児童が意欲的に取り組むことができた。技能習得のポイントが理解しやすいように、カメラやビデオなどの視聴覚教材を活用しながら進める必要がある。</p>	<p>学習カードを使って、自分やチームのめあてをたて、課題にあった運動に取り組ませたことで、児童同士が協力し合い、活動することができた。基礎体力を高めるために、有効な資料や場の設定工夫していく必要がある。</p>	<p>場やルールを工夫し、苦手な児童にも運動の楽しさを味わわせることができた。チーム編成を工夫し、多くの児童が試合で勝つ喜びを味わえた。今後、学習資料を活用し、自ら良い動きを追及させたい。</p>